



# Jaws

## レポート 75

Japan Animal Welfare Society

発行人：山下真一郎  
編集人：桜井邦広  
〃：山口千津子  
編集協力：平山企画舎



発行 / 公益社団法人日本動物福祉協会 〒141-0031 東京都品川区西五反田 8-1-8 中村屋ビル内 TEL (03) 5750-8856 FAX (03) 5496-0930 http://www.jaws.or.jp

### 新 シェルター メディスンセミナー

# より良い譲渡に向けて

## シェルターにおける獣医学的管理と行動学



### ◇ 主な内容 ◇

新シェルターメディスンセミナー報告	1	3
エッセイ「お互い様」 山崎恵子氏	3	3
視察報告・支部だより	4	6
平成25年度定時会員総会のご報告	5	6
ご寄付について / 作文コンテストメッセ切お知らせ	5	6
新人スタッフ紹介	5	6
理事会レポート、来年版カレンダーご案内	6	6
動物愛護週間中央行事お知らせ	6	6
新グッズ紹介	6	6
会員継続と会費の納入お願い	6	6
寄付者ご芳名	6	6
ジョーズジュニアコーナー	8	6

次号の発行予定は  
12月です。

昨年まで7回開催してきましたアニマルシェルターセミナーを、今年度から一新し、「シェルター・メディスン・セミナー」より良い譲渡に向けて」として、2年間で4回に分け、概論から各論までを順次講師の先生にご講演いただくことになりました(予定は当協会ホームページに掲載)。

今回は第1回「シェルターメディスン概論」と題して、カリフォルニア大学デイビス校の田中亜紀先生から「シェルターメディスン」新しい伴侶動物医療」を、日本獣医生命科学大学の入交眞巳先生からは「シェルターにかかわる動物行動学」をご講演いただき、さらに、過去7回のシェルターセミナーから得られた知識を生かして改善された新潟県動物愛護センターの遠山潤先生からご講演いただきました。以下にその概要をお届けします。

### 第1回 シェルターメディスン概論

#### 新しい伴侶動物医療

田中亜紀先生



☆シェルターメディスンとは  
動物保護施設から発展した獣医療で、アメリカでは「伴侶動物の群管理」と定義されており、全米各地の獣医科大学のカリキュラムや卒業教育に入られている。

☆アメリカのアニマルシェルター

・日本の動物愛護センターと同じような役割をする行政シェルターといわゆる

・シェルターは感情移入しやすいところであるが、科学的根拠に基づく獣医療が必要。

#### ☆シェルター内の動物管理

・群管理 動物行動学に基づき、譲渡を科学する。  
・収容環境やハンドリングによって譲渡の可能性が違ふ

#### ☆譲渡した動物の返還理由と対策

・理由・準備・予備知識不十分、動物の行動や特徴の理解不足  
・譲渡後に飼い主と動物が良い関係を保つには  
動物の健康・行動に関するより多くの情報を譲渡前に知らせる  
・適材適所の譲渡  
動物の健康増進や保持のための教育  
しつけ教室に関する情報  
ワクチンや獣医療の重要性、なるべく早く地元の獣医師との関係を築いてもらう。

#### ☆なぜ日本でもシェルターメディスンが必要か

・動物愛護管理法が改正され、返還・譲渡を増やして殺処分を極力減らす方向性が打ち出され、動物を同時に多頭飼育することになる。

#### ☆飼い主のいない猫対策

・不妊手術 性成熟前(猫:6~16週令、犬:5.5ヶ月)  
・TNR 群の8割以上の不妊手術で効果  
・T H V R ー卵巣・精巣を残す術式では35%で効果

#### ☆シェルターメディスン Ⅱ 総合医療

・感染症管理・衛生管理  
動物の管理 / エンリッチメント・栄養・行動学・疫学・早期不妊手術・施設設計・災害獣医療・動物虐待  
生産医療  
・シェルター環境の向上(施設設計、エンリッチメント、人道的安楽死、スタッフと市民の安全)  
・シェルターでの譲渡数増加(動物の健康増進、市民のイメージアップ)  
・収容数減少(動物がホームレスにならないようにする)  
動物愛護精神のある地域社会

#### ☆群管理

・群の健康、感染症の予防  
シェルターに合わせた治療  
・シェルターでの群管理の目標  
動物の健康を維持し、ス

ストレスを減らす

譲渡可能な動物に適切な家族を提供する  
譲渡できない動物にも人道的処置を  
殺処分を減らし、譲渡を増やす  
公衆衛生及び地域の安全を守る

施設全体としての目標

・適材適所の譲渡を行い、譲渡が良い経験に繋がるようにする  
・市民教育(飼い方指導、しつけ教室等)  
・地域のサポート(ボランティア等)

限られた予算を効率的に利用  
・群の状態を把握するー目標値は?  
・成果測定

動物の収容状況、頭数  
品種傾向  
安楽死率、譲渡率  
疾病の発生率、発病率、寄与危険率、原因別死亡率  
治療日数、一日治療頭数、治療費

動物の滞在日数、一日収容頭数、月間収容頭数、年間収容頭数  
・予防医療  
病気になる前に対処、疾患サーベイランス  
問題点を探す

① 個体群管理(正確なデータ収集と統計処理、犬猫の群動態を的確に把握、1頭の動物のケアに当たる時間、管理可能な最大頭数)と群集整理(群の配分、収容してから譲渡までの流れ、部屋の配分)

② 洗浄・消毒  
③ ワクチン接種  
④ 栄養管理